



県下で初めて結成されたゴールド防犯交通安全教育隊の隊長

みずのしんいちろう
水野信一郎さん
岩松・林町 (79歳)



最近ふえているのが、お年寄りを狙いにした悪徳商法。壺や印鑑、健康食品などを不当な値段で売りつけるという商法が目立っています。こうした被害を未然に防ぎ、加えて高齢者の交通安全も啓蒙するのが、ゴールド防犯交通安全教育隊

です。シルバーの上を行くという意味でゴールドという名を付けた県下で初めての組織です。隊員は市老人クラブ連合会の各支部から選出された四十七人。当面は、警察官や交通指導員の話や聞いたり、映画などで勉強します。水野さんはこの初代隊長で、市老連の今年度の会長です。耳も目も至って丈夫で、折り目の正しさは年齢を感じさせません。「近ごろは商売の手口が巧妙で、年寄りにはだまされやすい。一人暮らしは特に危険なので、これを機会に学習し、年寄りの間の連絡を密にしたい」と抱負を語ります。モットーは「人を愛し、人に愛される」。暇なときは花づくりに精を出すというロマン派。

まちか

我がまちを語る



荒川一郎さん
水の上(69歳)

歴史と活力を備えた街
今泉は豊かな湧き水に恵まれ、古くから発展してきた地区です。今の中央図書館西側に通称ガマと呼んだ水の自噴地があり、そこから流れ出た水は、水車をいくつ

も回すほどでした。ここを流れる田宿川の深さは二メートルぐらいあったように思います。この湧水が今泉を製紙工場発祥の地として、「紙の都富士」のもとをつくりました。また、今泉には善徳寺や平家越源太坂など有名な史跡がたくさんあります。これらは、この地区が昔から重要な場所であった証拠と言えます。このように歴史と活力を兼ね備えた今泉の原動力は、今泉魂と呼ばれるガッツと人々のまとまりのよさでした。将来に向けて今泉に住む私たちは、水の恩恵を再認識したまちづくりをする必要があると思います。



布の絵本のボランティア



ひょうたんいんの名人
大石芳彦さん(71歳)

大石さんちの玄関に入ると、漫画やえとをかけたひょうたんがぎっしり。その数は三百を超えるといわれています。初めてひょうたんを植えたのは昭和五十一年ごろ。大きいひょうたんがたくさんになったことから、置き物づくりに凝りだしました。今では、毎年百五十個余りをつくる名人です。

学習・ボランティアグループ「ポテトの会」は、布を素材とした絵本・すごろくなどをつくり、幼稚園や福祉施設に借し出しています。メンバーは今泉地区のはりきりママさん十二人。月二・三回、今泉公民館を拠点として活動しています。代表の牧野倫子さん(上和田)は「無理せず、自ら楽しむ活動を心がけています」と一言。



横断歩道の指導を十年
滝口正一さん(泉町)

「おじいさん、おはよう！」きょうも、子供たちの元気なあいさつを受けての横断指導。滝口正一さん(七十六歳)は、横断指導の奉仕活動を始めて十年目。たまに旅行などで休むと「きのうはどうしたの？」と気遣いの声も。「嫌なことがあっても、旗振りをやれば気分はさわやか」と何よりの楽しみにしています。

あの人の人ごんなこと

